

あなたの肺は大丈夫ですか？

肺の生活習慣病『COPD(慢性閉塞性肺疾患)』はCTで診る

■ 肺の生活習慣病

有害ガスやタバコをはじめとする有害粒子を吸い続けると肺は慢性的に炎症を起こした状態になります。この状態が続くと肺胞壁が破壊され、気管支が収縮し、酸素と二酸化炭素の交換ができにくくなっていきます。これが進行する肺気腫や慢性気管支炎といった病気になります。

■ COPDとは？

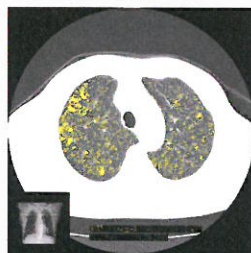
主にタバコの喫煙や有害なガスの吸引が原因で、肺が慢性的な炎症を起こし、肺胞壁が破壊されたり気道が狭くなったりする疾患をCOPDと言います。初期の症状が咳や痰、息切れといったごくありふれたものであり、本人も気付かないくらいゆっくりと進行していくため、重症になるまで受診しないことが大きな問題です。



■ COPDとCT検査

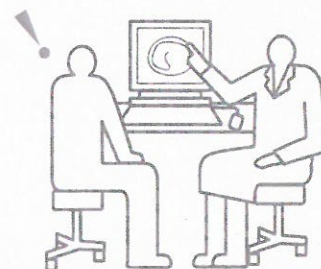
COPDにおける肺胞壁の破壊された領域は、CT検査によって、その広がり詳細に把握できます。当院では、最新型CT装置と測定ソフトを用いて簡単かつ正確に肺胞のダメージの度合いを測定し、的確なアドバイスをさせていただきます。

CTの検査結果

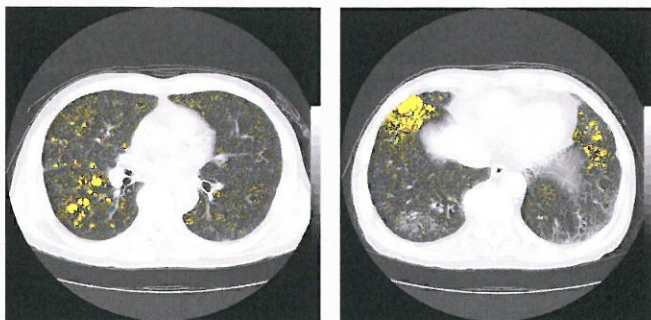


黄: 肺気腫疑い領域

画像を見ながらの説明

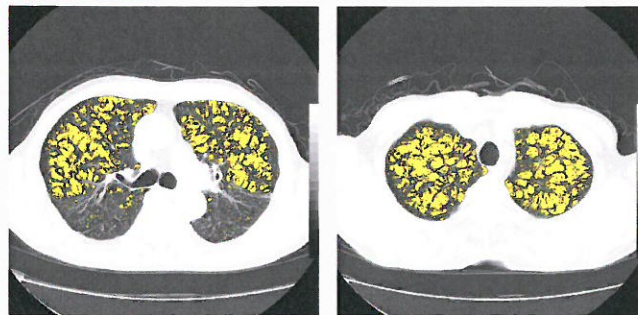


CASE1



33.3 cm ²	低吸収領域面積	30.2 cm ²
285.4 cm ²	肺野面積	247.7 cm ²
11.7 %	肺野に占める 低吸収領域の割合	12.2 %

CASE2



66.3 cm ²	低吸収領域面積	64.3 cm ²
132.3 cm ²	肺野面積	207.3 cm ²
50.1 %	肺野に占める 低吸収領域の割合	31.0 %

★詳しくは当院医師又は技師にご相談下さい。